

道徳教育全体計画

児童の実態		学校教育目標		関係法規・教育方針	
・ 明朗で素直である。 ・ 外で元気に遊ぶ児童が多い。 ・ 深く考え、判断し、実践しようとする力の育成が必要である。		関わり合いながら進んで学ぶ、 人間性豊かな「かどわきっ子」の育成 (めざす児童像) ○ やさしく (共感できる子ども) ○ かしく (考動できる子ども) ○ たくましく (心も体も元気な子ども)		・ 憲法 ・ 教育基本法 ・ 学校教育法 ・ 学習指導要領 ・ 県、市の教育方針及び目標 ・ 地域社会の要請 ・ 家庭、地域社会の実態と願い	
道徳教育の目標					
○ 自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。					
道徳教育における全学年に共通した重点目標					
◎ 互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育む。【友情、信頼】 ◎ 自己との関わりで、生きることのすばらしさや生きているもの全ての生命の尊さについて考えを深める。【生命の尊さ】					
各教科等		特別の教科道徳		外国語活動（３・４年）	
国語	伝え合う力を高め、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにすることを通して道徳的心情や道徳的判断力を養う。	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
社会	地域及び我が国の国土と歴史への理解や多角的な思考を通して、我が国や郷土を愛する心を育てるとともに、公民的資質の基礎的な形成を通して、集団や社会の一員としての自覚を高める。	各学年の重点目標		総合的な学習の時間	
算数	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力の育成を通して道徳的な判断力を養うとともに、数理的处理や活動を通して、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てる。	低学年	中学年	高学年	探究課題の解決を通して、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする資質・能力を育てる。
理科	栽培や飼育などの体験活動を通して生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。観察、実験を通して、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てる。	◎ 友達と仲よくし、助け合うこと。【友情、信頼】 ◎ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。【生命の尊さ】 ◎ 自分の特徴に気付くこと。【個性の伸長】	◎ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。【友情、信頼】 ◎ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。【生命の尊さ】 ◎ 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。【善悪の判断、自律、自由と責任】	◎ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。【友情、信頼】 ◎ 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。【生命の尊さ】 ◎ 誠実に、明るく心で生活すること。【自主、自律、自由と責任】	
生活	具体的な活動や体験を通して、自然との関わりに関心をもつとともに生活上必要な習慣を身に付け、自立した生活を豊かにする基盤を養う。	指導方針		特別活動	
音楽	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と感性を育むとともに音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことで、道徳性の基盤を養う。	○ 道徳科を要として、学校教育活動全体を通して行う。 ○ 道徳性を養うために行う道徳科の学習活動 ◎ 道徳的諸価値について理解する ・ 価値理解→内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切であることを理解すること ・ 人間理解→道徳的価値は大切であってなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること ・ 他者理解→道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つでない、多様であるということを前提として理解すること ◎ 自己を見つめる（自己理解） ・ 自分事として考えられるような指導の工夫 ◎ 物事を多面的・多角的に考える ・ 二項対立の物事を取り扱うなどして、他者と対話したり、協働したりする活動の確実な設定 ◎ 自己の生き方についての考えを深める ・ 自分事として考えたことを自己の生き方につなげることを強く意識して指導 ◎ 指導の効果を高めるために、育成すべき力を確実に理解する ◎ 道徳的な判断力→それぞれの場面において善悪を判断する能力 ◎ 道徳的心情→道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情 ◎ 道徳的実践意欲→道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き ◎ 道徳的態度→具体的な道徳的行為への身構え ◎ 各内容項目について児童の実態を基に把握し直し、指導上の課題を児童の視点に立つて具体的に捉える、実態に基づく課題に即した指導 ○ 「聴く→考える→対話する→気付く・変わる」を意識した授業作り（スベリアル）（考え、議論する道徳） ・ 自分たちで問題を発見し、考え、対話し、判断し、動く。 ・ 書く活動とふり返りの時間の確実な設定 ・ 協働的な学習の推進 ・ 自分事として考える ・ 他者の考えを受け入れ、認める ・ 多様な見方、考え方へ ・ 支持的風土が大切 ○ 指導方法の工夫 ・ 教材提示の仕方 ・ 授業のねらいに深く関わる中心的な発問 ・ 書く活動や伝え合う活動などの言語活動 ・ 思考を促す板書 ・ 心に響く説話		学級活動 学年活動 児童会活動 クラブ活動 学校行事	学級を単位とする自発的、自治的な活動によって、望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度及び自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとする道徳性を養う。 異年齢集団による自発的、自治的な活動を通して、異年齢によるよりよい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養う。 共通の興味・関心を追求する活動を通して、異年齢によるよりよい人間関係の形成や個性の伸長、よりよいクラブ活動づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養う。 学校生活の充実に資する活動及び社会的、自然的体験活動を通して、よりよい人間関係の形成、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道徳性を養う。
家庭	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を通して自分の生活を見直すとともに、家庭における自分の役割を果たそうとする態度を養う。	生徒指導		豊かな体験活動	
体育	自己の課題の解決に向けて運動したり、集団で楽しくゲームを行ったりすることを通して、道徳的な判断力や態度を養う。健康・安全についての理解は生活習慣の大切さを知り、自己の生活を見直すことにつながる。	具体的な生活場面を通して、当面する諸問題を解決し改善することによって、具体的な行為の変容を図る。 1 生活目標の具現化 2 基本的行動様式の育成 3 生活のきまりの徹底		宿泊体験活動 地域の行事への積極的な参加 本物との出会い	
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーション能力を図ろうとする態度を養う。	環境整備		家庭・地域との連携	
○ 言語環境の整備及び充実 ○ 整理整頓され掃除の行き届いた校舎や教室の整備 ○ 身近な動植物の飼育栽培 ○ 掲示物の工夫		○ ＰＴＡ諸活動 ○ かどわきっ子の心を見つめる教育週間（道徳科の授業公開） ○ 学校支援会議 ○ 学校便りや学級通信などの情報発信 ○ 図書ボランティアによる朝の読み聞かせ		○ 宿泊体験活動 ○ 地域の行事への積極的な参加 ○ 本物との出会い	